卒業論文に関する評価の基準

卒業論文の審査体制・方法について

「卒業論文」は、学部4年生を対象とした必修科目の1つで、いずれかの研究室に所属して、教員の指導のもと、各研究室が推進している研究テーマに関する課題をこれまでに修得した学問を駆使して解決するものです。

＜審査方法＞
本科目は大学で学んだ学問の総仕上げに位置づけられ、学生は1年間の課題解決のための活動を通して得られた成果を論文にまとめて指導教員に提出するとともに、論文の内容について発表を行います。
なお、機械工学科と機械システム工学科では、決められた日時までに、論文を学科に提出することが求められます。

＜審査体制＞
機械工学科：
学生が提出した論文は、教員に開示され審査されるとともに、発表会で審査されます。その後、全教員による判定会議で審議され、卒業論文の単位取得が決定されます。

機械システム工学科：
学生が提出した論文は、教員に開示され審査されるとともに、発表会で審査されます。その後、全教員による判定会議で審議され、卒業論文の単位取得が決定されます。

電気電子工学科：
学生が提出した論文は指導教員による審査を受け、口頭発表会では学内外問わず開かれた場で論文の質と量について評価を受けます。口頭発表会での評価と提出された論文の審査が卒業論文の単位取得に直接関係します。

卒業論文の満たすべき基準について

工学部		・学部の卒業論文の審査では、工学院大学学則の定める修得単位数を満たしていること。 ・所属する学科の研究領域において専門知識・専門技術を身につけ、現代社会の問題から解決すべき課題を抽出でき、それに取り組む姿勢を備えている。 ・課題解決に必要な論理的思考力や分析力があり、解決策が立案できる。 ・ 自らの考えを論理的にまとめ、適切に表現できる。 ・人間社会と科学技術との関わりを多面的に捉えられ、社会や職業についての知識や技術者として必要な倫理観を備えている。
機械工学科	学士 （工学）	機械工学の主要分野四力学（流体力学、熱力学、材料力学、機械力学）・材料・設計および加工の知識を身につけている。 四力学や機械製図などの知識を総合し、設計やものづくりの問題解決策を提案できる力を身につけている。 ・研究テーマの社会的・技術的な意味を理解し、取り組むべき課題や問題について技術者倫理の視点をふくめて認識することができる。 ・研究の目標を設定し、その目標の達成に向けて解析・実験の手順などを系統的にまとめることができる。 ・卒業論文の解析・実験結果を吟味して、必要があればその研究手順を能動的に再構築することができる。 ・1年間の成果を卒業論文として冊子にとりまとめることができる。 ・発表会において研究成果を分かりやすく発表することができる。
機械システム 工学科	学士 （工学）	機械工学の主要分野（力学・材料・設計・電子機械・生産工学）の知識を身につけている。 システム工学の主要分野（制御／環境／ロボティクス／システム）の知識を身につけている。 機械工学の主要分野に属する機械要素を用いて構成されたシステムの説明ができる。 ・研究テーマの社会的・技術的な意味を理解し、取り組むべき課題や問題について技術者の視点をふくめて認識することができる。 ・研究の目標を設定し、その目標の達成に向けて解析・実験の手順などを系統的にまとめることができる。 ・卒業論文の解析・実験結果を吟味して、必要があればその研究手順を能動的に再構築することができる。 ・1年間の成果を卒業論文として冊子にとりまとめることができる。 ・発表会において研究成果を分かりやすく発表することができる。
電気電子工学科	学士 （工学）	電気電子工学の主要分野（電気エネルギーの発生・利用・輸送／エレクトロニクス／システム・計測制御）の知識を身につけている。 上記の主要分野の技術課題を解決する手法を習得している。 ・研究テーマの社会的・技術的な意味を理解し、取り組むべき課題や問題について技術者の視点をふくめて認識することができる。 ・研究の目標を設定し、その目標の達成に向けて解析・実験の手順などを系統的にまとめることができる。 ・卒業論文の解析・実験結果を吟味して、必要があればその研究手順を能動的に再構築することができる。 ・1年間の成果を卒業論文として冊子にとりまとめることができる。 ・公開発表会において定められた時間内に研究成果を分かりやすく発表することができる。